

ゼロカーボンシティ 実現に向けて 新たな取り組みが スタートします！



ゼロカーボンシティ実現に向けて、今年度より「ゼロカーボンシティ推進協議会」の立ち上げを予定しています。当協議会では、脱炭素化および地域内循環型社会と2050年までにカーボンニュートラル実現に向け、町民および事業者と行政が一体となり、今後の町全体での取組を議論していきます。

また、平成28年度に策定した「最上町地球温暖化対策実行計画」の見直しを図り、ゼロカーボンシティ実現に向けたロードマップの指針を改訂していきます。

昨年度実施した町民のエネルギーに関するアンケートの詳細な分析と、事業所に対して行ったエネルギー利用に関する追加調査を基に、町全体でのエネルギー利用の現状把握と課題を洗い出し、省エネ・脱炭素化に向けた実現可能な取組の検討と意識の醸成を図ります。



「太陽光パネルやバイオマスを活用し、 最上町独自のゼロカーボンへ！」

ゼロカーボンと言っても何のこ
とやらと思われる方も多くでしよ
う。でも、電気代、灯油代、ガス
代がゼロになると聞けばどうです
か？ゼロカーボンシティが目指す
のは、そういう化石燃料にはお金
を使わないまちにすることです。



アドバイザー
東北芸術工科大学
三浦 秀一教授

要因はほぼありません。
こうしたエネルギー支出の負担
を減らしていくために考えなけれ
ばならないのが、省エネと再生可
能エネルギーです。省エネと言っ
ても、夏のエアコンをがまんした
り、冬の暖房を控えたりするよう
なことは健康に良くありません。
例えば、太陽光発電があれば、暑
くなる夏の日中はエアコンの電気
代もかからなくなります。年間通
して太陽光の発電した電気節約
できる分が年間4〜5万円出てき
ます。

使って、平均的な価格で太陽光パ
ネルを設置できれば、10年程度で
元が取れることになります。
とは言え、エネルギーをたくさ
ん使うのはやはり暖房が必要な冬
ですが、この時期は太陽光発電も
あまり期待できません。冬のエネ
ルギー源として活躍するのがバイ
オマスである薪やペレットです。
薪をつくるのが大変だと思われる
方も多いと思いますが、町内の林
業者から原木を購入して薪割りだ
けを自分でやれば、電気や灯油の
暖房に比べて光熱費が3分の1に
なります。

の「一歩」として、町がゼロ
カーボンシティとなったこ
とや、それに伴い温暖化対
策に町民の皆様と共に一丸
となつて取り組んでいき
たいということから特集を企
画しました。
環境保全や脱炭素社会は
一人で出来ることではあり
ません。この素晴らしい自
然と環境を次世代へ引き継
ぐためにも、行政、事業所、
個人が出来ることを共有し
ていくことが必要です。
今年是最上町が誕生して
から70周年を迎えます。30
年後もその先も、環境と共
生する持続可能な地域であ
り続ける未来のために、歩
み続けて行きましょう。

——特集 終——

町内企業が進める ゼロカーボンアクション

もがみ地産地消 エネルギー合同会社

もがみ地産地消エネルギー合同会社（代
表：三部義道）は、令和5年3月より法人
化し町内での事業を開始。地域エネルギー
の電源開発や可能性調査、更には電力売電
などを行なっています。

同社はカーボンニュートラルを通じた地
域課題の解決、行政と町民が一体となつて
環境問題に取り組むまちづくりを理念に事
業を行なっています。

今回はゼロカーボンシティを広く町民の
皆様に知っていただくため特集でお送りし
ましたが、今後は行政と同社が共同で町民
の皆様に対し、ゼロカーボンについての普
及活動を行なっていきます。



また、町としても太陽
光発電システムや木質バ
イオマス燃焼機器等に對
しての補助金を交付して
いるほか、ウエルネスプ
ラザや、若者定住環境モ
デルタウンへの木質バイ
オマスエネルギーの供給
道の駅もがみに設置され
ている電気自動車充電
設備など再生可能エネ
ルギーの利用促進に力を入
れています。

また、子どもたちとも
に、大人も家庭から出来る
ゼロカーボンに取り組むこ
とも、環境教育につながり
ます。
今回は「ゼロカーボンへ

株式会社もがみ木質 エネルギー

株式会社もがみ木質エネルギー（代表取
締役：下山邦彦）は、町の木質バイオマス
事業を支えています。町域の8割が森林の
最上町では、原木から製材すると約40%
もの木材がごみの対象となります。それら
を有効活用し、森林の間伐から木質チップ
の製造、運搬を行ない、木質資源を100%
まで使い切ります

また、森林伐採地に新たな木を植林し、
CO2 吸収量を増やす取り組みも行なってい
ます。町内の児童と園児は森林保全、環境
学習の一環として植林を行なっていますが、
同社は環境について子どもたちが理解し、
次世代へつなげるよう取り組んでいます。



ゼロ カーボンシ ティの実現には、 家庭だけでなく 企業や事業所をはじめ町 全体での取り組みが必要 不可欠です。排出量の約 30%を占める町内事業所 の一部では、既に環境に やさしいエネルギーの供 給や太陽光パネル設置な どゼロカーボンに向けた 取り組みが始まっていま す。

脱炭素社会を 目指してみんなで 取り組もう

ゼロカーボンでは、CO2
を吸収してくれる木々を守
り、増やしていくことも重
要です。毎年10月から11月
にかけて、「最上町森林資源
利活用システム学習会事業」
として、町内の小学校の児
童とあつたことも園の園児
たちは、森林学習を行なつ
ています。内容は伐採され
た場所への植林と、木質バ
イオマスエネルギーの施設
見学です。今後、町の将来
を担う子どもたちが環境保
全を学ぶ機会があることは
非常に重要なことです。

排出するCO2を削減するだけでなく、光
合成でCO2を吸収する木を植えるなど
で、町全体の排出量を減らすことが、こ
の自然豊かな最上町を次世代へ継承して
いくことにつながります。町内で実施さ
れている取り組みを紹介します。

もがみの自然と環境をこれからも